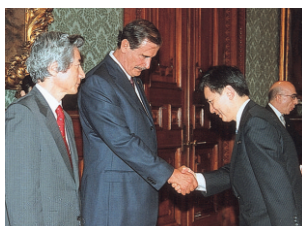


春風接人

変革への多面的な視座



写真下段左：地方制度調査会出席中の筆者（中央）
写真下段右：メキシコ大統領宮殿にて

Profile

内閣官房内閣参事官（内閣総務官室） 関 博之

昭和56年 4月 自治省採用
昭和56年 7月 京都府地方課（昭和57年6月より財政課）
昭和58年 7月 自治省自治大学校
昭和59年 9月 自治省財政局地方債課
昭和61年 7月 国税庁西尾税務署長
昭和62年 7月 通商産業省基礎産業局総務課企業班長
平成元年 4月 鳥根県商工振興課長（平成2年4月より財政課長）
平成4年 4月 自治省税務局固定資産税課課長補佐
平成6年 4月 自治省財政局交付税課課長補佐
平成7年 8月 自治省大臣秘書官
平成8年11月 自治省大臣官房総務課理事官
平成9年11月 自治省財政局公営企業経営企画官兼大臣官房総務課
平成10年 7月 奈良県企画部理事
平成10年10月 奈良県総務部長
平成13年 4月 奈良県副知事
平成15年 4月 総務省自治財政局財政課財政企画官（大臣官房参事官併任）

一昨年の8月から、総理大臣官邸で仕事をしています。

気の抜けない毎日ですが、いろいろな政策決定を目の当たりにすることも多く、刺激的な日々です。総務省は守備範囲が広いためボールが飛んでくることも多く、特に最近では、三位一体の改革、郵政民営化、災害対応、IT推進、行政改革、政策評価など、総務省が中心に関わるテーマが多いため、総務省の各課の皆さんの協力をいただきながら、小泉総理の意向を踏まえ、国民の皆さんの目線でいい仕事ができるよう努めております。

昨年一年を振り返って見ますと、

1月

林消防庁長官（45年入省）から救急救命士制度の充実、とりわけ気管挿管や薬剤投与の方向について総理に説明。もともと総理は制度発足時から積極的な推進論者。

2月

国会で予算審議。郵政民営化、三位一体改革や行政改革など総務省関係の質疑も多くなされる。

3月

1日には第28次地方制度調査会がスタート。総理から諸井会長へ道州制などについて諮問。

4月

26日に郵政民営化準備室が発足。総務省からは鍋倉次長（45年入省）、利根川参事官（54年入省）ほかが発足準備室へ。

5月

22日に総理が北朝鮮へ。小熊拉致被害者・家族支援室長（54年入省）もいっしょに訪朝し、家族と共に帰国。

6月

8日からシーアイランド・サミットへ。11日に政策評価等の実施状況と政策への反映状況について公表、国会提出。24日参議院議員通常選挙公示。

7月

1日から郵政民営化準備室を大幅増員。11日参議院議員選挙投票開票。29日に官邸で全国都道府県議会議長との意見交換会開催。

8月

5日に市町村合併全国シンポジウムに総理出席。24日に地方6団体の代表が総理へ国庫補助負担金の改革案を提出。「地方案を真摯に受け止めて」具体案の検討がスタート。

9月

10日に郵政民営化の基本方針を閣議決定。13日からブラジルへ。サンパウロでJETプログラムのOBの方々と総理との意見交換会を実施。総理はJETプログラムの発案者の一人。荒木総括審議官（49年入省）が同行。メキシコでのFTAの調印式、ニューヨークでの国連演説などを経て帰国。27日に内閣改造。

10月

12日から臨時国会。「政治とカネ」が最大の争点とされる。23日に新潟県中越地震発生。直ちに官邸危機管理センターに緊急参集。27日は党首討論直前まで消防のハイパーレスキュー

隊による優太ちゃんの救出を見守る。

11月

12日に全国知事会議を官邸で開催。4大臣会合や与党政調との調整を進め、26日に三位一体改革の全体像を政府・与党で合意。28日からASEAN+3のためラオスへ。通信施設整備などの関係で高原総務審議官（46年入省）が同行し首脳会議出席。

12月

3日に臨時国会閉会。18日地方財政対策決着。22日に行政管理局による機構・定員の審査終了。24日の政府予算案決定に併せ来年度の国の行政組織等の減量・効率化方針を決定。28日に統計局から完全失業率が4.5%と発表され、平成11年1月以来の低い水準に。

小泉総理の好きな言葉の一つに「春風接人」があります。儒学者佐藤一斎が言志四録の中で「春風接人、秋霜自肅」と述べ、春風のような優しさで人に接し、秋の霜のごとく厳しく自らの行動をただすということを説いております。

私は一昨年の3月末まで奈良県で副知事を勤めさせていただきました。行政の現場に出れば出るほど、この言葉は響きます。

総務省は、各省庁の人から民間の方々まで、さらには地域の住民の皆さんまで幅広く接して仕事をしていきます。春風の優しさで多くの方々に接し、自分を磨き、いっしょにいい仕事をしませんか。